

19
2017
5

古今奇談美句冊第五卷

八 猥瑣道人水品を辨へ 五官の音を知らず

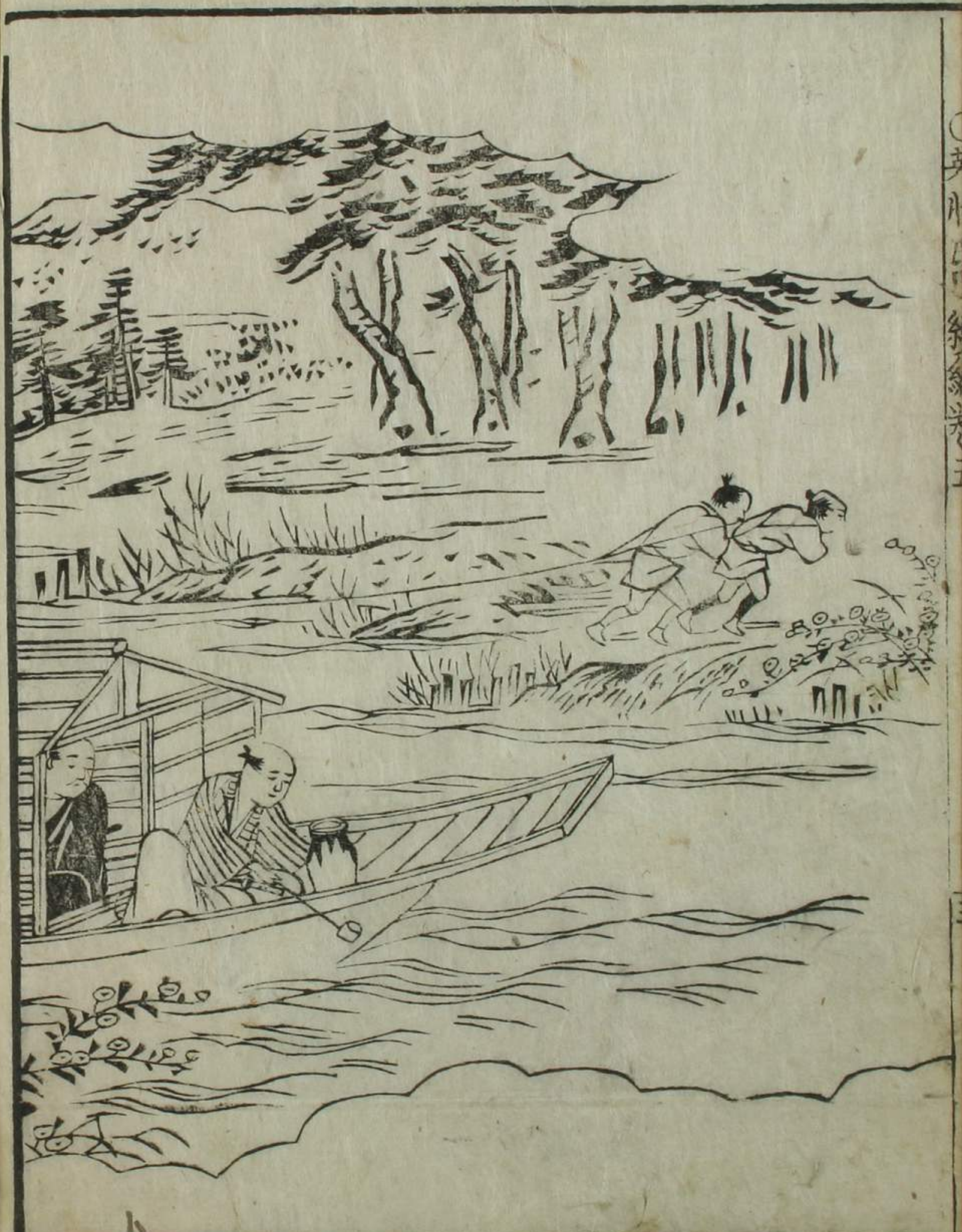
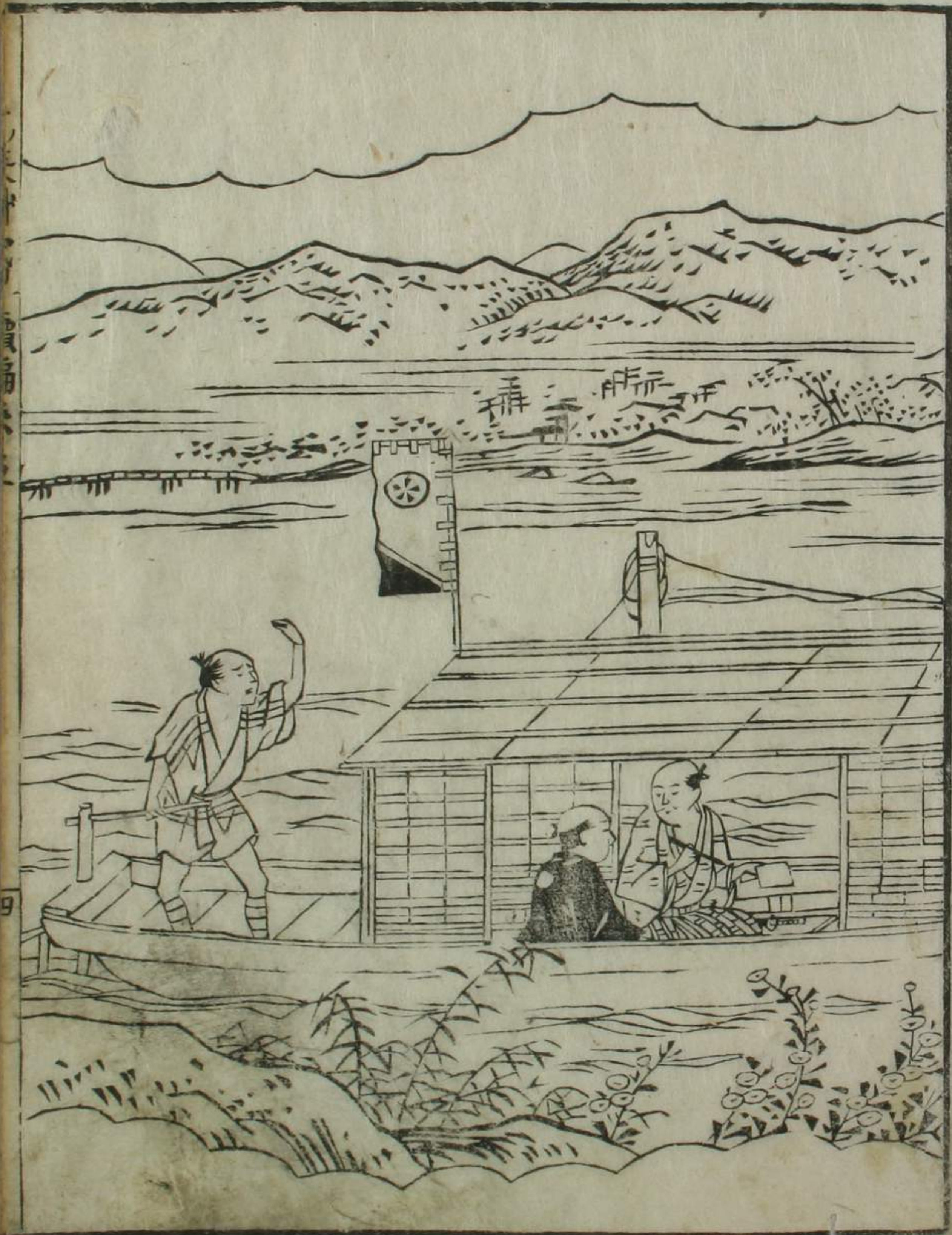
隱逸の癖ハ身を我ものごとくして動くことある時ハ方域を越えて花紅
をもち月の最中も名に成りぬりて咄め伎師つれてハ遠き山水
の地一遊を遊居は朝暮さらよきてハ一歩の地ハ蔓草小滝を辨
下小菊を告ひ須弥を致し納き橋中ハ碁を圍む小室の内ハ一瓶
半茶の清香は狼烟を卑と。半陸片幅の濃液ハ出襟を染まじ。深
掃ハ筋力を按摩し。晚飯の美食ハ養生す。塵俗の執具なられども
自ら猥瑣通人とよひ菴を自在と號し。飲を苦茗と執しむ時いさ大
困ハ陸盧の好手やあらずを趣を叩く人もふし。身ハかくてこそ。今柳
蓋なきも冥加いらふと五音れ人相を施す。け道やと去れりハき人さ
合せて我より合つとす。後車の合さるやを故わらふし。それ成説与

古今奇談美句冊第五卷

配ハ甚ハやそらるるごさよ。ゆごごご。紙ハく。沸く。ぬ。流。ま。も。か。べ。ご。ら。
親長。実。も。迫。る。ご。ら。宮。の。内。ハ。室。の。配。偶。一。そ。か。え。あ。る。ご。ら。一。と。同。よ。
云。な。い。よ。う。よ。拍。を。排。列。ハ。様。四。方。梅。花。様。も。因。り。た。よ。一。拍。あ。り。
右。ハ。そ。ら。ご。ら。必。用。の。実。器。ハ。野。二。役。を。ま。す。好。事。の。意。器。ハ。雅。一。親。
を。ち。り。と。す。親。も。用。る。人。多。け。き。バ。俗。と。あ。り。俗。も。稀。二。尺。れ。を。親。二。混。
ず。天。竺。の。山。水。ハ。眼。下。二。在。り。と。も。人。物。の。掛。幅。ハ。妻。人。教。添。ご。ら。公。地。
と。と。と。ご。ら。や。親。長。云。実。も。山。上。れ。山。分。ご。ら。毎。中。れ。毎。ハ。い。ろ。小。棹。ご。
人。美。二。教。奇。常。二。伴。僚。志。け。あ。る。ハ。自。然。ち。あ。せ。ハ。い。ろ。小。せ。ん。朝。夕。二。左。右。
す。る。洞。度。ハ。お。小。も。い。ろ。や。ご。ら。儀。を。兼。ね。櫃。を。同。く。し。神。人。秀。小。あ。
ま。て。我。お。二。使。役。を。ら。ご。ら。め。く。か。る。ハ。使。室。の。要。よ。て。自。在。ハ。誰。も。れ。ご。ら。あ。る。
れ。ハ。和。尚。の。自。在。度。も。家。を。わ。ら。る。名。二。あ。ら。び。云。是。儀。ご。ら。二。出。家。と。名。
を。竊。め。ハ。そ。妙。却。野。の。同。願。る。人。の。お。二。役。け。く。塵。塵。二。蓋。せ。ぬ。ハ。云。地。

二似て。室の外ハ根ご一擧せて。袖を捲へき。樹ハ自然二瘦せ。細を架
の石ハ有き小凸あり。初作其燥て頂を撲へき。低摺あり。身心を降
伏して背を踏むの小牖あり。水ハ山後より一流りて。第一義あり。泉
源。近きハ毒あり。汚漆の流をまら。ハ。深。く。ハ。井。水。の。居。て。き。地。二。居。
ご。ご。ご。あ。り。使。ハ。碓。ご。一。澗。ハ。碓。ご。ご。ご。と。そ。を。洗。び。ら。あ。か。り。ご。ら。め。り。ご。
す。自。筆。ハ。書。も。画。も。轍。を。翻。せ。け。れ。ハ。親。長。一。幅。を。持。せ。あ。り。て。書。畫。
二。淋。ご。ら。人。ハ。人。の。ち。あ。り。ご。ら。知。り。和。尚。の。鑿。を。信。ご。ら。ん。と。そ。望。二。掛。張。ご。
日。親。の。蒲。椀。故。あ。り。て。河。内。遊。佐。殿。ご。ら。う。務。ご。ら。托。紙。二。真。相。乃。鑿。堂。の。
事。と。撰。頭。是。大。二。傳。來。あ。り。貴。殿。か。ら。ご。ら。一。と。進。て。又。退。て。看。き。親。長。
を。羨。稱。ご。ら。そ。ら。座。を。送。ご。ら。す。示。れ。ご。ら。ご。ご。と。て。諫。息。の。臣。二。究。め。ご。ら。令。
あ。ハ。幅。紙。ハ。元。朝。ご。ら。一。と。知。由。子。の。印。色。淺。め。二。麻。油。朱。な。ご。ら。ご。ら。又。由。紙。
是。ハ。画。友。進。呈。の。幅。ご。ら。素。ご。ら。落。款。ご。ら。ご。ら。一。後。人。擬。名。を。堪。ご。ら。ご。

三



英月山行紀卷之五

とてそんゆつと。親長少僕がどひもそ初小わらぬ。高峯欽休とて。是を以てよよ世小傳未降して。鑿は撥て古人の筆を欲する。枉心費あるはる。古人の跡は固縁乃家。選りたるハ奇偶とて。一。それを募うて頼せんとす。此品三品を五れ。よくも欺さ。城振く。骨を賣して良馬。到るハ。拍して。かき。鑿。識。一人。さ。これハ。贗。魔。一丈高し。傳。来。を。授。而。と。これ。は。ま。証。は。贗。作。の。鑿。よ。人。を。好。む。れ。ハ。鑿者。自。を。欺。さ。人。を。欺。く。鑿。も。亦。ね。む。へ。う。べ。と。語。れ。々。々。此。親。長。ハ。人。の。知。る。相。劔。あり。これ。は。菴。は。訪。で。來。る。賈。人。和。尚。に。托。して。眼。を。借。ら。ん。と。け。日。從。者。門。に。遲。を。見。て。入。來。を。知。り。振。糸。す。道。人。櫃。を。進。め。鑿。を。下。し。劔。ハ。ま。と。め。せ。ら。ん。親。長。禮。讓。して。先。和。尚。一。言。と。辭。さ。ら。時。信。家。は。不。勤。の。意。を。ま。も。も。粗。忽。さ。ら。五。音。よ。て。試。む。べ。一。と。よ。別。ぬ。信。よ。て。先。中。根。錢。を。ハ。一。も。さ。錢。さ。う。靴。を。ま。む。扱。け。て。扱。を。い。く。彈。く。

こと幾度云是之百年ハ疾とる。又一瞬をえて彈くこと幾とひ。云。け。劔。ハ。彼。より。二。百。年。さ。ら。古。し。と。云。親。長。一。劔。を。把。て。靴。を。放。ち。て。相。ら。鉗。槌。柃。理。小。地。色。白。く。沸。星。多。く。背。う。ま。く。接。を。く。二。字。の。銘。あ。る。ハ。是。寛。弘。の。派。治。行。平。の。お。拍。是。を。古。作。と。教。べ。し。今。一。劔。を。え。ん。ら。小。拍。お。り。て。よ。う。か。ら。を。接。う。か。う。さ。く。と。花。ふ。れ。も。古。作。と。ハ。稱。せ。ず。是。ハ。冬。後。の。行。平。と。て。告。和。の。派。治。な。う。實。は。寛。弘。を。去。こ。と。二。百。年。よ。近。し。五。音。の。神。も。ま。ま。奇。な。る。う。れ。と。感。じ。と。う。愛。人。も。劔。相。う。ら。ハ。是。を。妙。と。濫。定。成。り。ぬ。と。信。一。頃。山。背。の。宇。治。の。水。石。よ。土。沙。柵。れ。肝。葉。を。令。せ。れ。て。彼。よ。ま。か。ま。ハ。飛。陽。の。志。な。る。や。と。誘。つ。る。道。人。お。し。も。是。の。氣。を。勞。ハ。ま。送。恨。え。と。さ。う。さ。ら。て。夢。山。を。め。ぐ。り。水。ハ。中。峽。を。酌。て。中。焦。を。治。ま。と。又。順。流。水。を。用。て。下。焦。を。治。し。急。流。水。の。臍。を。用。く。れ。氣。ハ。詞。工。よ。て。効。少。し。茶。を。煮。よ。ハ。分。別。忘。れ。

英州中興續編卷五

ありて試みるなり。公ハ美人あきバ。宇治ハ夫を督むることて幸
 なき。一壺の漢水をえて土儀ハ初ハレ。彼流ハ鹿飛ところを上峡と
 一。湖水を引て漸く峡ハ入きバ。志津河を中峡と一。宇治橋
 の級差を下峡とす。ハ之峡の内ハ世の人下峡を告と。思ハ欲す
 るハ是中峡なり。志津川と合て水勢盛あるをみる。親長是程の唐易
 あらんやとうけがいられバ。道人甚ハ款待て美ちやがてこそとておれ
 ぬ。親長云命をなす。彼ハいつ。夫ハ舟を引せて。嶮ミあつて。はらうて
 渡行す。あつらうしめ。泥者ハかろ。ハ志津川の水こそ。櫻蔭舟のあつて
 たり。一舟と。從川上の柵。柵まで檢知。己ハ舟を下げ流ハ治ハ時。
 ハ水路ハ名ハあり。文苑なき。景拍ハ奪きて。柵を失つ。舟もよ
 小湖水ハ懐度として。眼の及ぶ。系地多く。遠望して。磯の。ハ宇治
 此系ハ柵を交る。不せき。一小園ハ流を引がぬ。も。皇朝ハ近けれバ。

五孫子遊賞終えず。吟咏古来多く。林業ハ旁らめて。金わよ。あ
 朝日山ハ。流も。眺望と。位を。ぼ。遊。宇治の弱。子
 の山。凌。そ。考。け。是。網。代。禁。制。の。石。浮。回。魏。院。と。變。て。砂。洲。と。立。つ。
 時。ハ。山。吹。の。花。れ。比。平。等。院。の。前。う。川。辺。ハ。沿。て。橋。の。小。崎。の。傍。ハ
 咲。つ。け。ら。ら。う。日。ハ。氣。を。さ。は。さ。れ。て。川。際。の。金。色。を。な。す。親。長。見。て。楳。葉
 の。名。空。ハ。竹。つ。す。と。侍。ハ。硯。を。後。ハ。一。め。碓。て。石。を。ハ。又。湯。す。邊。ハ
 お。ろ。と。史。之。方。ハ。不。禪。流。水。急。唯。恨。盡。遲。來。を。吟。て。奥。ハ。う。
 金。風。の。山。吹。れ。漱。と。吟。せ。ハ。人。ハ。花。ハ。公。ハ。な。り。ハ。う。是。ハ。そ。瓦。礫。の
 う。う。ど。ろ。う。ま。と。

秋草山吹名有則有馬黃金不換今日此時
 けあひごよも急流志ぐもたゆまはず速は橋をるそりれハ舟をこさけ
 びて。今下ハ舟を引上げと催せど。ハ急流ハうごんよまうせん樓の

島より。所詮督役殿より。又こそ急流に遊さんと。もづらう。壺の水が汲み奉て。之ハ上峡の水中峡より。中峡の水下峡に流る。はきりとの差別ありやと。瑠璃に傾け入る。封を加へる水調ひぬと。監督の業成り。南紀より。提へて自ら是を致す。通人候ひ。即座に鍋中へ傾け入る。痛多きを啜りけし。是れ中峡の水なる。も下峡にもあり。燻上せ茶を試る。及むすと。壺を割て中々。彼上峡ハ流おほく水利らう。土氣ありて重し。中峡ハ水勞せ。土流て軽し。下峡ハ拍滯り沙湧てまじく重し。長袖衣ハ中焦の疾あり。試し中峡の水を以て茶を服せんと志す。是下候ぞ。飲んで服用を澄ます。親長大に驚き。是僕が上人を試らる。け水ハ我もづらう。汲て和尙の命を奪す。兼て近侍らへて碓氷。是こそ。流老に持せし。壺を石よせて。試みんと。道人候ち親

滴を差より。一。そ滴發を察して。是こそと大に悦て納めおく。親長を通の堂より。を感じ。友誼いよく親しかり。其の時近江ある石丸乃何某命を奪して。其儀の奇蹟を征す。款は加勢多。却て款小折。石丸も戦死す。畠山政光大家に供して。大和筒井の城に入。ちんと。乃を探せど。往來塞うて自在あらず。大家を召し。不定めず。泉橋の毒。其の氏家より。みり。塚の商人。其毒を某。畠山乃高好。あれを毒を奪ふ。忍ぶせなり。旅人の体よて。くせあり。と苦き。うけ。ば。多く。遠ぶ。り。て。毒。な。れ。ど。畏。ら。る。お。涼。て。私。口。より。毒。女。の。器。れ。り。入。せ。な。し。と。約。し。け。ら。わ。ら。ぬ。政。光。ハ。先。よ。り。て。内。衣。に。ち。つ。ひ。お。回。し。て。待。た。る。そ。お。し。も。雪。降。り。て。小。止。あ。し。け。ま。又。本。源。と。い。高。人。お。ふ。け。て。通。ら。あ。は。せ。お。後。の。齒。さ。ま。ま。は。は。ら。る。香。を。門。の。板。よ。り。叩。き。あ。り。け。ら。内。より。唯。と。言。ふ。政。光。は。音。を

賤らば。云。此本音合て官を執る。是身を匿すの信あり。似せ
て。叩く。狂利公と云。と。つ。内戸には。後役けらる。あ人の使女だ
を。静ふ。開き。え。より。火。いて。く。く。く。傍。あ。水。手。を。搦。て。む。る。う。れ。奥。の
内。案。四。中。屏。風。立。圍。ら。上。壇。に。清。なる。政。光。抽。け。け。ら。う。て。後。の
る。く。か。い。う。ま。し。て。あ。ね。を。こ。も。り。海。す。べ。互。身。の。大。さ。な。う。と
い。ひ。て。そ。ろ。ろ。の。光。が。れ。ま。ひ。の。後。門。に。め。ぬ。女。房。あ。り。て。ま。も。り。お。六
せ。み。よ。と。も。い。り。て。引。り。残。ぬ。の。様。作。あ。り。と。殷。勤。と。云。め。り。て。面。目。を。失。ひ
い。る。り。か。ま。敷。日。の。化。國。を。幸。ふ。常。に。ま。り。て。故。あ。る。人。を。夜。中。に
招。入。る。い。ぬ。お。は。ず。も。わ。ら。ぬ。市。方。の。内。入。り。い。り。ま。し。り。て。重。き。罪。に。過。り
づ。一。只。希。い。く。後。役。の。志。を。揚。り。人。の。告。り。よ。と。ま。り。れ。し。金。色。銀。色
を。出。し。て。賤。ひ。け。ら。う。は。男。色。を。い。り。り。文。ず。於。同。答。あ。ら。う。と。立。物。の
附。り。も。床。の。柵。な。り。し。一。簾。此。箇。を。取。て。ぬ。り。り。を。そ。附。は。あ。ら。う

り。政。光。は。引。互。て。い。家。に。君。を。忍。む。を。ま。り。通。路。を。あ。は。せ。て。敷。日。の
後。筒。井。の。城。へ。入。を。り。り。ら。が。幾。や。も。ま。く。志。を。敵。に。解。れ。進。退。を
失。ひ。山。口。の。所。而。を。暮。し。用。防。ま。り。う。ぬ。却。て。後。彼。一。簾。の。身。の。重
き。ある。成。失。ひ。て。家。内。探。ね。迷。ひ。り。り。彼。商人。本。海。の。女。房。の。親。里
入。江。屋。ま。り。り。そ。の。由。は。我。等。に。留。め。お。く。と。告。げ。き。は。女子。の。罪。を。披。ひ
い。箇。を。取。返。さん。ぬ。今。報。を。ま。く。は。一。の。屋。を。独。ん。と。つ。は。本。海。に。ま
お。て。中。や。我。は。畠。山。政。長。の。家人。なり。年。來。平。野。の。花。井。を。討。て。我
世。子。に。敵。を。興。さ。せん。取。ひ。あり。助。力。を。た。ら。と。り。さ。う。は。否。か。ら。し。議
ひ。て。ま。費用。を。も。ま。り。あり。花。堂。の。遠。近。に。ま。聚。會。し。て。子。配。を。定。め
杉。原。遊。佐。の。く。と。ま。り。平。野。へ。夜。討。し。て。花。井。を。破。る。く。討。て。り。り。遂
に。ま。君。尚。慶。を。清。い。なり。河。内。の。宮。屋。れ。城。と。築。さ。す。根。柵。と。な。り
早。ぬ。彼。政。光。と。本。海。と。お。ま。せ。ば。は。一。味。あ。ら。う。根。柵。水。音。と。知。り。政



光本音を知らず。修ハ一流にて生傍ハよく年一たり。但は佃をハ
て知らざる。高家此妻女ハ正室家の相ありて。一時の急病
無実の名を顧みず。本澤が名をなせし。僅に符合せり。僕も撰
が相せし人あり。水金本ハ定らざる。無情の相。音交る事なし。
人ハ是活勅を司り。相。末末の合へり。さるる。かこの如し。

九 白々の翁運に乗じて大に發給する話

霊場の縁起。曰。信州文科の郡。毛谷辺白介とあり。先祖ハ允
恭天皇亦出て中法の人罪を朝家よけけ地。今ハ世代後
王後土の赦免ハ先代に宣下る事あり。後友の相奉り。是けきハ還り
住。さるる。一畝の民とあり。貧窮されども。土地の人
依旧白介と。白々素人の事なり。父ハ大友の目あり。民なれども
大友のまき。ハ。名を。幼名を。と。呼ぶ。

は。多。上。位。と。隣の水。司の。附搭して。大和の。侍。あり。け。田の。在。に。を。れ。此。士。を。安。心。の。を。朝。農。業。ハ。福。を。な。す。や。豊。年。も。優。の。妙。ハ。苦。む。ハ。農。家。な。り。と。農。と。持。

て高とある。利高利なく。或ハ世家の長者となせバ我より下よ人か
 一。通信の脚力とかきバ位不々定くす。野をち程の茅屋も。茶や
 利をふさぎほろや福の籠くさうと。店を南かへ逃げ西東トトす。或
 ハ多家ト剥抽なけきども。鼎や古くして。銭換ふら。ちカハ家傳か
 せども。其劍文身の五行ト反らやと。人かト換うて改むきと。改
 めぬりのハ朝夕の櫛細けきハ安とひ出しと。我名を小之とよぶと。
 福を運するの称トちらと。太方と改号し。又ハ其風土の人ト合不
 合あるやと。大和を去て近江トいふ。高橋神傳のあうと。依り位
 一。いづらある土着を買て。京師ト負ゆきて。賣して。銭志おれけき
 ども。是そと増し。世の人乃初濃の利生をとふる。とハ日月乃
 著明あるが。ぬくなれぬ。おいふ。で。き。應かう。んと。おひ。う。と。濱海
 より。三日の行程を。乃の俊宜トハわく。特地ト月毎の糸街をとひ

立り。是も。二。と。を。き。ぬ。一。其の糸街ト。己ト。洋を。う。て。産。樹の石
 壇ト。踏。て。息を。納。り。け。き。よ。甘。息。と。る。人。を。ま。り。入。ま。う。て。幾。ぞ。く。乃。人
 の。中。に。考。う。る。修。験。道。あり。他。か。ま。う。詣。で。ま。る。よ。う。を。憐。れ。を。始。終。を
 歩。て。甚。と。恨。び。す。是。下。の。素。姓。い。う。も。せ。よ。時。傳。う。て。民。の。多。ハ。常。なる。よ。
 い。ら。な。う。り。れ。ち。量。を。ま。る。不。と。て。今。を。考。う。と。さ。る。志。一。途。な。う。ず
 して。神。を。降。し。佛。を。叩。き。世。人。れ。る。と。よ。習。ひ。て。迷。ひ。は。迷。ひ。て。身。を。う
 ら。し。人。を。う。う。や。と。容。貌。も。か。け。ら。傷。ま。し。その。い。う。あり。俗。ト。歩。と
 や。業。あ。れ。バ。命。あ。う。と。い。つ。を。我。初。道。の。君。り。の。志。学。を。と。れ。バ。ま。境。は
 き。う。て。業。を。踏。し。ら。は。一。冊。の。善。命。書。と。替。眼。五。十。綱。を。あ。く。時
 服。れ。ま。う。そ。逐。ひ。中。よ。道。と。う。人。を。た。が。し。て。関。れ。東。三。野。の。水
 ま。で。も。け。て。め。ぐ。り。ぬ。る。時。ハ。彼。不。の。土。産。負。て。來。る。是。子。を。谷。ト。擲。る
 獅子。の。志。を。と。ぐ。ま。う。と。れ。と。我。生。業。の。常。伴。う。て。花。の。浮。き。よ。と。ハ。身

を憐む。一。世運道理は疾利。世の怪も角を折り。おちらうともまれら
ま。我強を強もたき。とてさひおとらせらる中。むう。むう。絶
えぬ。い。占トの。い。さ。あり。人の。送。い。を。あ。い。さ。さ。ら。や。う。あ。ま。ご。と。ま。う。人の。送
ひ。あ。く。い。廢。ま。ら。る。生。業。の。ま。ま。く。拙。さ。り。の。い。た。ま。ら。奉。人。家。乃。限。う
ま。く。受。来。あ。く。積。畜。い。ま。れ。も。我。身。一。つ。ま。す。と。あ。く。つ。ず。亦。馬。蹄。刀
を。り。て。飄。然。の。裏。に。切。る。の。た。く。切。合。せ。ら。る。や。う。の。い。し。と。約。し。く。さ。ら。る
ら。れ。二。人。の。存。否。も。亦。な。ら。ぬ。を。い。ん。せん。家。道。廢。さ。り。の。を。連
累。あ。り。世。の。困。樂。ハ。拙。さ。り。あ。り。出。ら。安。居。ハ。交。り。少。き。ま。依。る。連。累。を。相
と。も。せ。ず。安。居。錢。十。分。れ。り。と。も。さ。ら。く。苦。公。三。年。を。れ。バ。放。心。一
代。と。ぶ。一。され。ど。方。伯。子。を。拙。く。の。あ。い。ま。城。に。あ。る。べ。う。び。と。か。ら。る。右。万
云。富。は。い。定。る。業。ふ。一。材。實。は。定。る。ま。た。一。何。を。業。と。せん。孝。子。文。を。相
て。給。い。ま。と。同。ふ。山。伏。云。我。今。是。下。の。あ。い。ま。い。を。終。ま。り。親。切。な。れ。ハ。

あ。く。い。占。ト。を。洗。面。正。一。か。じ。ト。者。ハ。知。己。を。り。し。義。士。ハ。生。む。を
難。ら。ま。下。ハ。妻。あ。り。や。云。い。ま。じ。山。伏。云。い。ま。ご。妻。を。け。れ。ハ。人。家。の。運
定。し。ず。ま。ら。よ。そ。ふ。あ。ら。バ。子。く。納。め。一。客。を。そ。く。む。り。幣。を。求。ら。う。云
只。是。利。あ。ら。バ。碓。ハ。い。と。ハ。ず。山。伏。云。是。你。の。今。日。れ。見。た。う。一。時。の。花。り
子。孫。の。業。を。各。き。致。ひ。あり。今。を。快。う。を。窮。め。ご。ん。ハ。る。を。有。つ。と。も。禍
水。材。火。を。滅。し。小。池。の。水。面。を。見。て。淺。山。の。在。ま。を。さ。ら。る。一。客。ハ。ぬ。人
の。徳。が。う。略。え。ぬ。一。靡。曼。と。娉。婷。と。襪。一。掬。は。盈。さ。ら。ハ。妻。家。の。選
る。其。も。三。代。の。卯。は。和。教。ふ。一。唐。詩。の。外。は。詩。か。一。と。つ。み。が。ぬ。く。ま。て
其。も。近。さ。を。求。る。は。教。も。信。も。ま。ま。ハ。あ。ら。ん。搗。の。唇。柳。の。娘。を。れ。く
あり。西。施。あ。り。て。聲。よく。褒。姒。の。こ。う。く。多。よ。ま。あ。ら。ず。眼。頬。鼻。口。拳。伏
柔。媚。一。ま。の。い。よ。可。あ。ら。ん。を。さ。ら。て。顧。盼。の。好。看。と。せん。の。こ。何。ぞ。必。ず
悉。く。信。ら。し。を。ま。ま。ん。農。家。ハ。足。大。骨。を。く。し。て。勞。は。堪。一。高。家。ハ

記帳ありて理よきことと云ふ。我々もす。お生業の越ハハハハあるや云。人の言
くおらることとして利多かん。莫令死さく。奥に賞て。京師に賣る。白
藤。美。馬。小。球。中。去。小。う。う。顔。だ。う。屋。去。ハ。莫。令。死。さ。く。一
釐。千。錢。に。賣。り。赤。銅。是。に。次。と。使。ハ。ば。玉。の。銅。を。任。那。新。羅。に。賣。り。せ
ハ。快。利。あ。ん。山。伏。云。西。去。り。と。う。赤。銅。之。一。く。ハ。彼。地。ハ。水。路。便。宜
也。山。途。運。送。難。し。國。大。に。南。小。遠。く。小。國。此。産。南。國。の。用。に。及。ず。却
我。小。の。船。路。便。宜。ある。に。買。て。南。國。の。用。に。充。つ。是。志。う。私。の。賣。買。に
あ。り。ハ。湖。水。を。飛。跨。の。見。後。を。や。め。て。よ。是。下。に。已。に。近。江。に。賣。て。泉。和。小
賣。る。れ。活。業。を。知。り。ぬ。れ。ハ。い。う。が。う。の。茅。一。根。う。利。倍。を。与。え。れ
柑。子。一。盆。を。賣。貨。に。代。り。る。利。の。天。福。ハ。ある。ま。い。我。々。に。教。を。ト。セ
ん。我。ト。ハ。法。世。に。是。あり。今日。ある。人の。法。ハ。今。靈。場。の。壽。偶。あり。
ち。地。に。縁。て。本。教。を。賣。へ。一。親。音。の。店。取。え。ハ。三。十。二。あり。ト。多。教。ハ

除くへ。ハハ奉期乃極教あり。之ハ時と日と刻あり。ハ拂ひよこさ
ひして。初ハ除く時ハ七つを刻を。是下ハ七色の貨物あり。之
万ハ一教へて云。實ハ七色あり。志くハ。中。に。一。歳。の。退。き。に。就。へ。し。
半。に。跨。り。て。奔。り。る。子。を。賣。り。つ。ら。ん。脊。膚。を。求。り。ハ。は。月。幸
あ。ん。の。と。大。万。を。刻。此。段。細。ある。に。終。ふ。と。い。へ。し。是。即。ち。親。音。の。告。を
う。せ。り。と。ぞ。と。教。へ。て。是。を。謝。し。別。を。か。せ。り。それ。より。初。漸。乃。傍
辺。森。と。い。ふ。所。に。知。音。の。人。説。合。し。て。妻。女。の。縁。あり。由。來。を。さ。ハ。め。と
と。い。へ。し。人。相。ひ。く。く。ト。者。の。言。を。も。わ。れ。は。是。以。致。一。海。に。攻
ま。り。つ。て。一。人。の。信。者。を。え。り。と。傳。へ。雲。霧。と。よ。か。強。く。し。て。勞。を
辭。せ。り。當。て。大。山。寺。に。二。五。小。形。う。て。カ。を。ゆ。り。と。ぞ。ち。万。店。を。開。て
七。種。の。物。を。居。く。 田。作。 乾。蔬。 柑。子。 串。鮑。 青。魚。子。 麻。布
蘭。絮。 同。店。の。衣。を。万。が。及。よ。妻。女。の。後。に。十。五。人。の。童。子。送。り。て。來。り。ま。る。

その中より八人辞して去る。七人ハ留ると見えり。さて妻はこれバ。我ハ
七人の子傍に侍ると見えり。と見えり。いざいざ。吾ハ妻とあはれんとおか
は妻生後を教つて。小んよ。おまうか。いさる程。よ。家業の三並多くを。務
二奥の酒布賣の師と。買つる。法喜まで。利倍あり。そ冬。南より。柑
子多買へり。江戸の品。よ。ま。う。て。僕。よく。賣。う。ぬ。そ。法。鶴。が。園。よ。土。を
賣。う。と。と。鎌倉殿。内。自身。よ。土。を。も。と。び。ぬ。ひ。ぬ。れ。八。東。今。國。の。法。家。人。夫。を。率
て。自。業。う。ま。う。る。日。限。え。い。僕。一。佐。々。本。殿。う。う。ま。う。人。夫。去。を。え。と。と
料。よ。か。ま。ま。を。買。も。ゆ。し。柑。子。の。空。う。る。か。ま。ま。多。く。積。ま。う。る。を。買
聚。る。人。一。つ。柑。子。の。入。る。僕。よ。買。て。ゆ。ぬ。是。の。こ。な。う。す。僕。よ。潤。色
一。と。い。ひ。立。妻。を。買。し。て。信。州。よ。還。き。い。え。の。白。め。と。名。の。り。父。母。れ
塚。を。も。拂。ひ。高。知。の。人。も。尋。ひ。の。び。不。り。て。土。地。利。用。の。七。種。を。貸。地。と
一。干。魚。蒲。紫。暴。布。ま。ど。他。國。よ。送。う。ち。り。て。利。益。お。ち。く。次。弟。よ。貸

殖。を。ち。つ。れ。ども。庫。藏。の。貨。ハ。世。よ。多。き。時。ハ。價。を。減。し。久。く。留。む。ま
ハ。財。を。塞。ぐ。土。地。城。ゆ。ば。と。ま。は。し。も。近。里。の。人。親。造。し。て。け。家。ハ。女
房。よ。福。神。の。降。り。て。お。ハ。身。よ。う。光。り。出。く。燈。火。を。設。け。ず。米。櫃。ハ。用
る。小。豆。す。身。ハ。綿。を。織。り。糸。ハ。布。を。お。る。量。人。ハ。丈。を。指。し。裁。刀。ハ。矩
を。用。ず。針。躑。ぐ。糸。を。る。白。を。擇。か。ひ。う。と。職。ハ。さい。か。う。その。こ。ま。も。後
よく。酒。を。た。う。て。ハ。袂。を。ひ。ら。ぐ。す。と。ま。う。ぬ。こ。と。ま。う。て。言。流。す。程。よ。そ
ま。の。領。家。も。我。の。館。先。祖。蝦。夷。を。撃。て。功。あり。蝦。夷。と。号。し。て。け
君。を。仰。よ。高。敏。麻。主。色。と。材。と。に。歌。う。る。折。う。る。は。女。房。の。売。あ。り
福。あ。り。て。多。福。云。ある。よ。放。戲。つ。と。て。古。代。の。貨。扑。野。狀。な。る。や。賭。ま。う。と
足。を。ゆ。んと。す。吉。祥。天。を。意。と。ハ。是。を。や。那。日。よ。合。め。て。勝。負。の。日。よ。我
企。し。め。初。ハ。財。宝。を。注。地。し。於。時。計。と。を。以。て。勝。人。を。す。近。頃。よ。膠
して。之。妻。れ。角。力。を。以。て。購。し。せん。と。謂。し。め。先。づ。本。去。な。る。色。バ。白。め。と



立ててを拱こし同音なり。今年のお撲ハ大衆賭博に於て發起。即ち
關原島の瑞兆なる。抑は業ハ神代より習来し。勝んとして悪き者
人情本姓の戯きあり。朝霞の始ハ野見蹶速の後ニ節令とたり。唐
土よき金と錦標社とす。それお撲とハ互にお推て力術をた
ら。彼がましくハ家ハたじ。彼が勝ひますまハせじとまらねこと
むなり。世よ人ハ不流をすまふと。お撲の音より起るとも承る。後
も厚も徳を失はす。土地安靜の内祈待たなりと。諸君叙て壇を
ぐ。やぐて方よ對ひむ。西の屯より居る。東より鉄八壇よのぼ
る。行目名乗を扱んとする。時東の賭方の家僕雲雀壇小上り。鉄八
を引さげて我合んとし。瘦くる素の男なき。凡人大胆者と恐む
もあり。壇をわたりよとせらるもあきこと。云雀引色んず。是こそ究め
て何を扱むべしと。お那司より白め退せしと。判されどもあらず。

初目見ては人の身をえらる。お撲せし人なる。け一對ハ彼よまうせよ
と。鬨を隔て立合せ。もはや對ひし。居る。内をありて。目と力を
ひいて對をくらえらる。雲雀も不存あき。バカ乃程を見せず。たぐひ
よかけつり。さし。かむむらほぐ。居る。ふ十を入りし。と。あハ閃さ
れ。去よ。前より勢ひ終りて。雲雀も一。く倒て。は場の笑いを傳う
しむ。雲雀今一對して勝者を定めんとす。是ハ一對ニ其の定めを
き。ハて。ちり。やぐて。西より。敵無壇。よ。上。巴。東よ。らん。ぐ。上。る。あ
方魁偉小山の如く。人ぬ目。も。獅子。う。虎。う。あ。それ。腕。子。や。と。勢。さ。采
る。己。一對。ち。と。ん。さ。ハ。敵。無。色。よ。突。き。ま。あ。る。勢。ハ。奔。雷。れ。如。く。え。け
れ。を。壇。の。端。よ。り。う。て。らん。ぐ。腕。を。広。て。彼。う。肩。を。一。排。す。敵。無。右。脚
踏。て。左。脚。費。合。踏。り。て。套。を。出。て。倒。る。そ。力。あ。る。と。存。考。虎。を。お。の
雄。威。も。か。く。と。ん。由。らん。ぐ。さ。か。く。強。け。き。ハ。せい。と。う。ハ。さ。こと。と。さ。ひ

三ノ目 三ノ目 三ノ目

中。己よかよのお撲よりして。双方壇より。西の虎を東のせい
 たる。いぼきも當時の機をさへめられ。八霸王各山は遠の勇あり。時
 よまよ。雲霧壇より。虎大まは射せんとさくむ。行目焦燥てから
 命あぶずやある。是為常れ款とさよ。撮まれく碎けぬべし。迷
 壇をりや命をつぎいと叱る。云は大なるの勝負をばいふ。合せとま
 らず。賭金よりも乞望て勝とも負ともんまらべしとつ。さあ。い合
 さく。と部署承る時。文科はお撲の定帯を上下。細事とするの
 をまばいふ。やとひん。あまふ壇より躍りあがり。雲霧と勝負を定
 とす。領家よりも望をまば。是をさるの勝方と約し立合て。行目
 己よ駿勇を揮て力をまをゆひ。最後た右を回して目を放さず。あま
 ぶ先よ雲霧が子格を知りて只取とめて倒さんとする。雲霧は小材よ
 身ハ只電のぬく。右よまうたようつる。あまふをえて身を固めて動

ず。遂は身の隙をみて双子挿てゆらうとかさつく。大カよさくめられ
 て自在ありぬ。雲霧。這個が両臂を緊く拘住て眠りぬ。這うも
 敵を老す。是柔術の力を究つて用されぬ。あまふも最もよ入あがり力
 を出すとあさず。俄ら敵の喰ひあひらると。あまふも入る内。雲霧は
 力を張てカよを滅ゆ。云と一息をたれ。長息を伸ると一尺をう。一
 此肉懐起て乞答をほ。金剛の暴るも勢やと。紐ひを滅拂ひ去る。下
 撞よ撥れ。あまふ眩まて踏直さんとする。あまふを。頂平叩れ。さ
 かよ。膝を縮む。是をみて百千人唱。あまふは勅さ。湧て。お撲ハ敵
 々。領家が情をいひとく。三教の誓約は軽き。これに違ふ事
 叶と。彼及領地を銚お痛よ。及べ。收公の例なり。遂は領家乃半
 多を水肉より檢地して請ふ。ね文科のたんと。あまふの外にす。さ
 ことにおとぐ。二度の真行もいもす。彼らへさうせい。さ。領家

の間者にて言ふくめて竟は負すべし候ありしを是偏は雲霧
か出生を祈りたる金剛の加護より勝をゆるりて是より七
地の人白め老とらひ。今や實は是天然素封のめたるべし。女房
六人乃男子を奉さども。雲霧をお獲とれ。長子をそれが子よ
書ハせ文科ある本家を持せ。又子成ふ所は家して是をみ方の
長者と人呼ぶ。かくあまは事足るべきに白めハは老老の老名よ
拘らず。諺よ未富してよく富りのハ富を全くせず。山園は任バ
必は氣弛へて大志を遂へく。此土地をゆるきハ安定を足りてお
乃幾を失ふべしと。賭は勝る地を能く返へ入る領家の配分小よ
アて海辺の地成えり。紙の漉浪は移り任と。又級と貸地を往來
そ上農家商人山林ハ衣食の系あり。是と互に貨を通せれば美
抱鏡あらずと。又子成役して決ふは通船して交りするよ。往とるると
して利ありざることを。財蚕紙よ載つてハ大利は非ず。聚寶盤
よ登すべしハ大富はありす。有とるるハ其の有はありず。白めり
包る依の金銀浪沙通國は切り。家業月と日小感人あると停
不をまらずと記し傳く

古今奇談卷之五終

古今
奇談

英草紙

全部五冊

先達書齋

英草紙
後編

繁野話

同

五冊 同斷

義經磐石傳

同

六冊 近日出来

天明六年丙午正月吉日

心齋橋筋順慶町入

柏原屋清右衛門

日

博勞町入

同

重兵衛

博勞町井池東入

同

嘉助

心齋橋筋傳馬町入

同

佐兵衛

日

順慶町南入

同

庄兵衛

日

南久寶寺町南入

同

河内屋八兵衛

浪華書林

